

# 研究レポート No.706 岩手県農業研究センター

## 大豆「シュウリュウ」に除草剤ベンタゾン液剤を散布するのは曇りの日に！

### 【1 反応特性と減収率】

- (1) 大豆2葉期の「シュウリュウ」にベンタゾン液剤（商品名：大豆バサグラン液剤）を処理すると、葉に褐変、葉巻、色抜けの初期薬害が発生しますが、新葉の展開とともに薬害症状は目立ちにくくなります。子実重の減収率は、100ml/10a 区で9%程度、150ml/a 区では13%程度です。
- (2) 大豆5葉期処理では、大豆2葉期処理と同様に葉に褐変、葉巻き、色抜けの初期薬害が発生しますが、処理後20日後には薬害症状は認められなくなります。子実重の減収率は、100ml/10a 区で4%程度、150ml/10a 区では8%程度です。

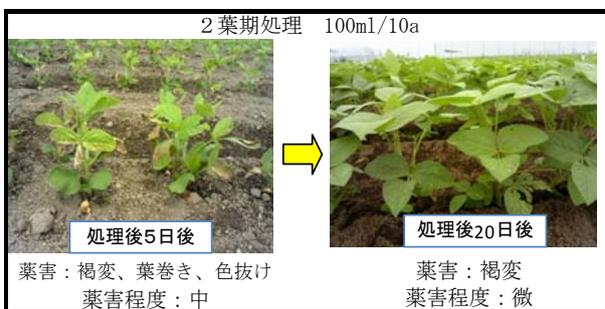


表 各処理による子実重と減収率

処理時期・処理量	品種名	子実重 kg/a	減収率
無処理	シュウリュウ	37.0	-
	ナンブシロメ	22.1	-
2L-100ml/10a	シュウリュウ	33.6	9%
	ナンブシロメ	21.0	5%
2L-150ml/10a	シュウリュウ	32.1	13%
	ナンブシロメ	20.0	10%
5L-100ml/10a	シュウリュウ	35.5	4%
	ナンブシロメ	21.2	4%
5L-150ml/10a	シュウリュウ	34.0	8%
	ナンブシロメ	20.8	6%

### 【2 薬害と減収を軽減する散布時期】

処理日とその翌日の日照時間が1日あたり5時間程度までは、薬害の発生が少なく、減収を減らすことができます。「シュウリュウ」にベンタゾン液剤を散布する場合は、雨天の心配がなく半日～1日を通して曇天が続く日に行いましょう。

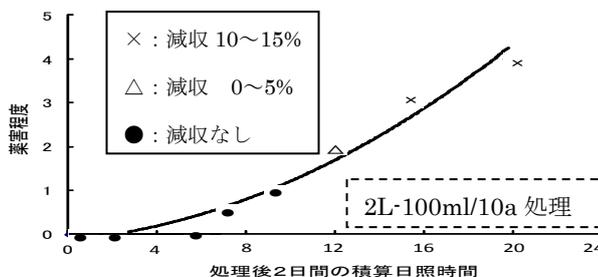


図1 処理後2日間の積算日照時間と薬害・減収率の関係

### 【3 効果】

ベンタゾン液剤を使用する際の大豆の薬害による減収の低減

### 【4 留意事項】

大豆の生育不良時の散布およびブームスプレーヤー等で重複散布した場合、薬害および減収が助長される場合があります。

### 【5 対象者】

農業改良普及センター等指導機関

担当研究室 技術部 作物研究室

〒024-0003 北上市成田 20-1

Tel. 0197-68-4417 FAX. 0197-71-1083